

服用期間中フォローアップ事例と成果の収集

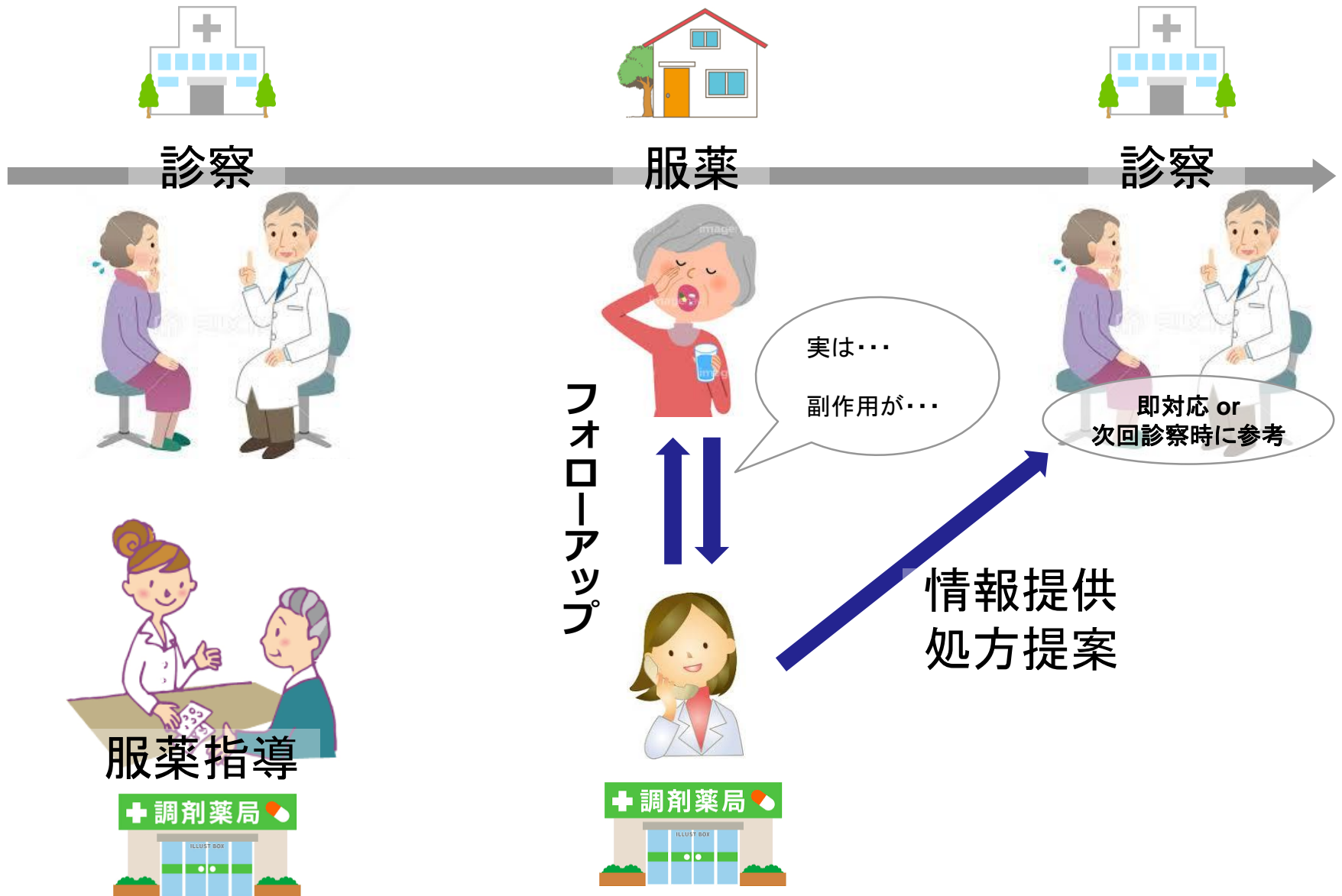
一般社団法人 日本保険薬局協会
医療制度検討委員会

2020年9月10日

調査概要

- 実施主体：一般社団法人日本保険薬局協会
医療制度検討委員会
- 目的：薬局薬剤師の職能
服用期間中フォローアップによる医療貢献の検証
- 内容：フォローアップの内容及び、それによって成された
医療連携及び成果を報告
- 方法：Webフォームへ事例報告
- 報告期間：2020年7月14日～2020年8月31日
- 報告数：20社 282薬局 より 525事例

服用期間中フォローアップのイメージ



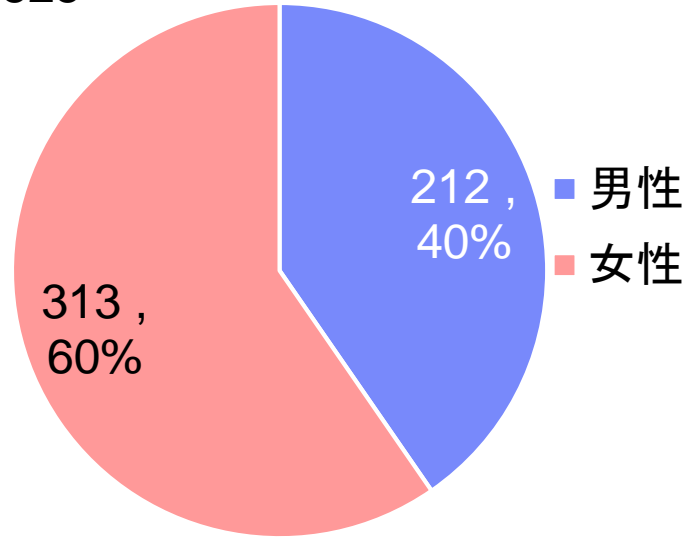
事例紹介

患者	フォローアップの概要
34歳女性	パニック障害の治療にて、SSRI系抗うつ剤が増量され、増量後4日後に電話にてフォローアップを実施した。患者様より「微熱、動悸、不安感がある」と聴取し、増量によるセロトニン症候群の可能性も踏まえて、医師に電話連絡を行い、医師より薬剤中止の指示が出された。中止後、症状は改善した。
59歳男性	0410対応。SNRI系抗うつ剤が追加され、初回服用ということもあり、4日後に電話にてフォローアップを実施。副作用もなく、飲み忘れもないということが聴取でき、その内容を処方医にトレーニングレポートを提出し情報提供を行った。
75歳女性	神経障害性疼痛に対する薬剤が追加され、1週間後に電話にてフォローアップを実施。服用後から浮腫が悪化していると相談を受け、処方医に薬剤服用による副作用で浮腫が発生している可能性があることを、添付文書を付けてトレーニングレポートを提出した。その後、薬剤は中止となり、浮腫も改善した。
76歳男性	抗がん剤(キナーゼ阻害剤)服用中の患者様。来局時に、「11時半ごろに服用している」「下痢の副作用」を聴取し、食事の影響を受け、血中濃度が上がる可能性がある薬剤のため、朝食、昼食と1時間以上は時間を空けて服用するように再指導を行った。後日、電話にてフォローアップを行った際に、「1時間以上時間を空けて服用するようにしたところ下痢が改善した」と聴取した。
97歳女性	認知症治療薬、抗アレルギー剤、漢方薬、下剤2種類を服用している患者様。認知症の進行、皮膚のアレルギー症状等の経過を毎週確認している中で、傾眠傾向から食事摂取が十分にできていないことが課題であった。介護職員とも事前に協議した上でこのような状況と、年齢を踏まえて、認知症治療薬、抗アレルギー剤、漢方薬の中止を処方医へ提案し、処方削除となった。その後、傾眠傾向が改善し、食事量も増加、以前よりコミュニケーションも図れるようになった。

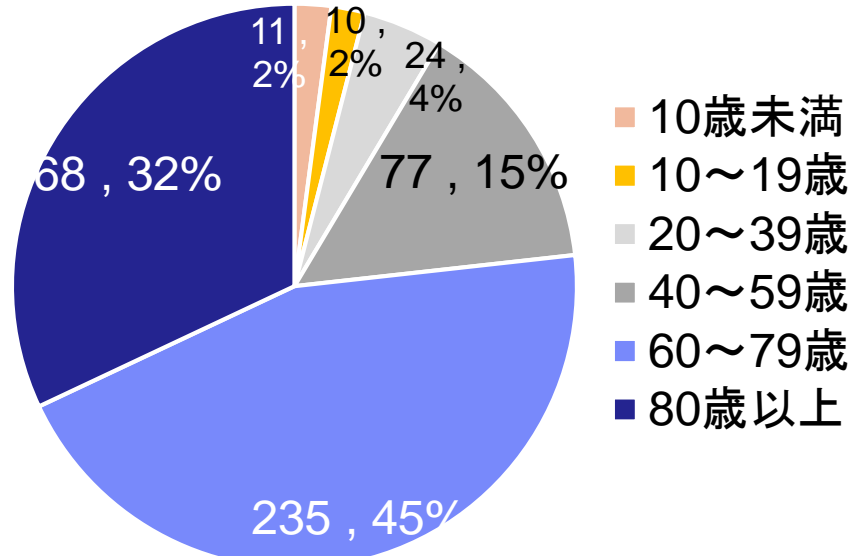
報告事例の患者基本情報

N=525

性別

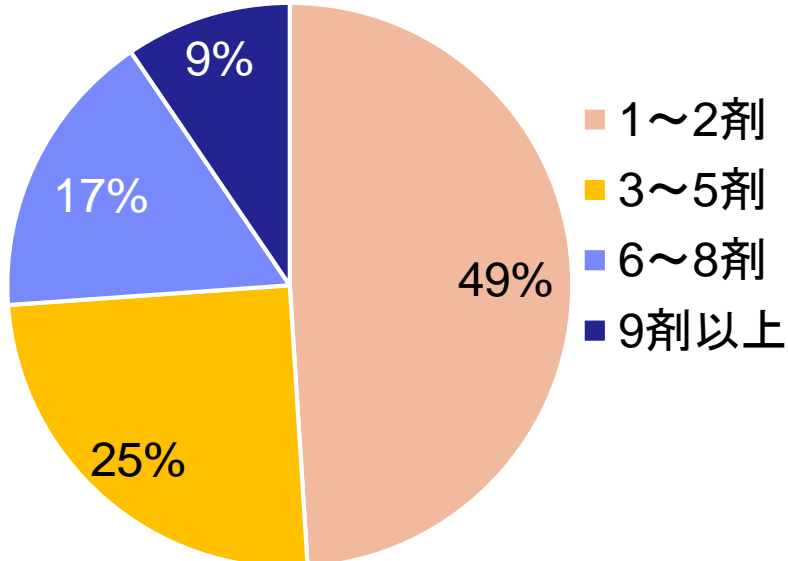


年齢

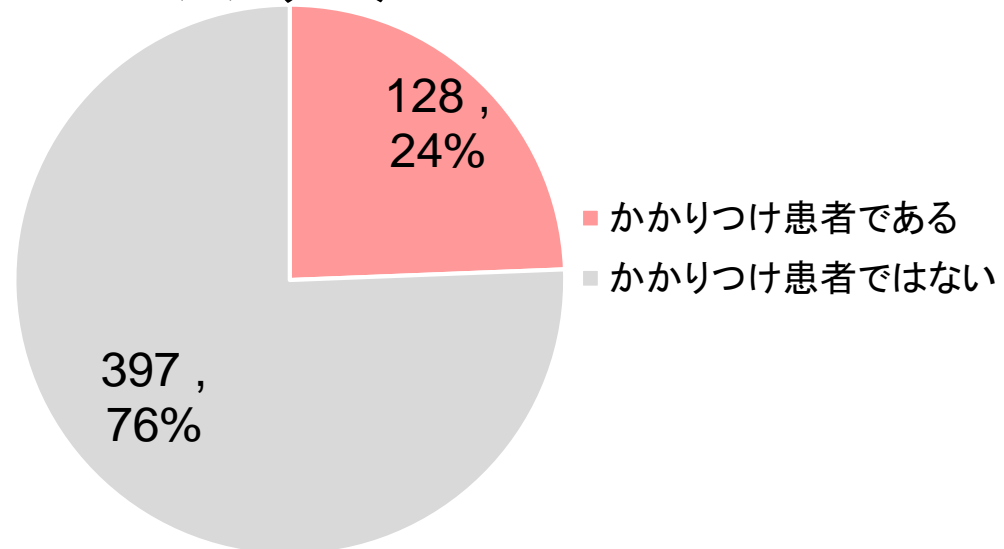


- 10歳未満
- 10～19歳
- 20～39歳
- 40～59歳
- 60～79歳
- 80歳以上

薬剤数



かかりつけ

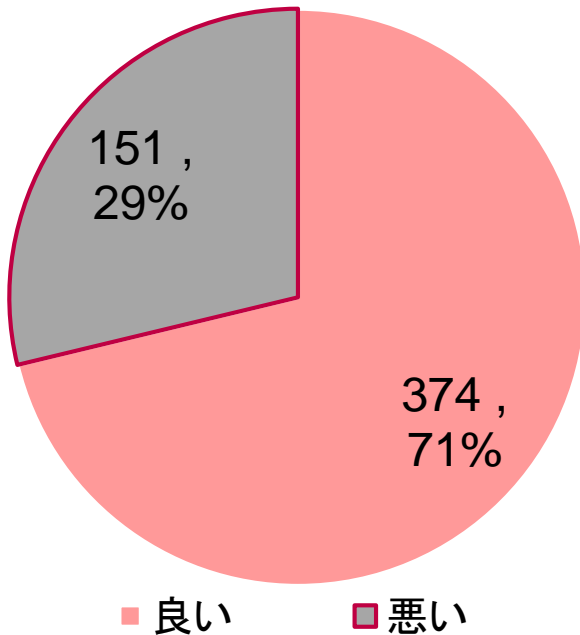


フォローアップ前の経過

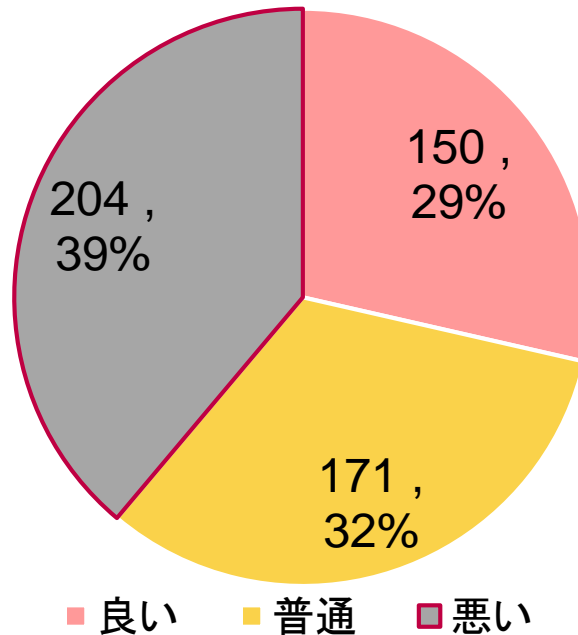
薬局薬剤師が服用期間中フォローアップを行う際、患者の服薬状況、体調、副作用に関して、「問題あり」と判断されている場合が多い。

N=525

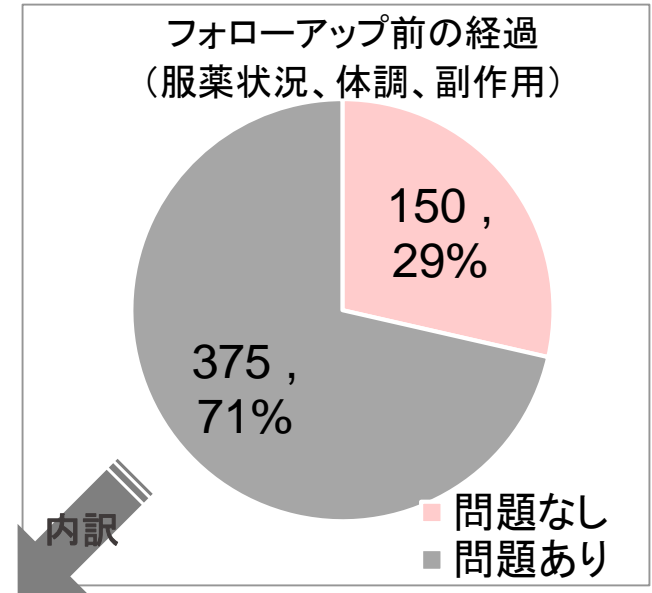
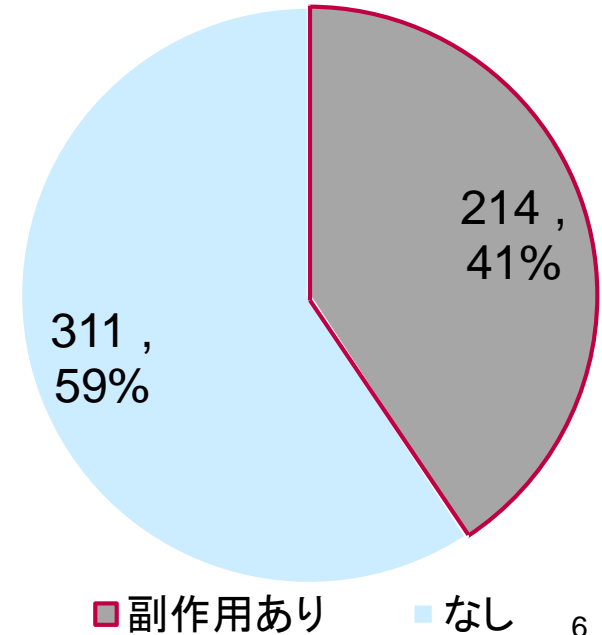
フォローアップ前の服薬状況



フォローアップ前の体調



フォローアップ前の副作用有無

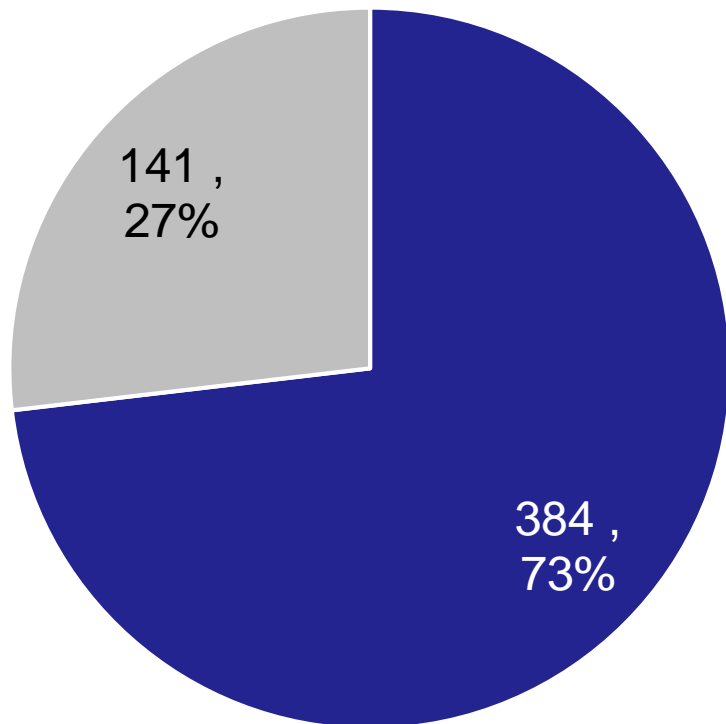


フォローアップ後の連携と成果の有無

今回、報告された事例では、フォローアップ後に、処方医への情報提供等、連携に繋がった事例が384件、73%、処方変更や経過改善等の成果につながった事例が497件、95%だった。次項以降にて、その内容の内訳を示す。

N=525

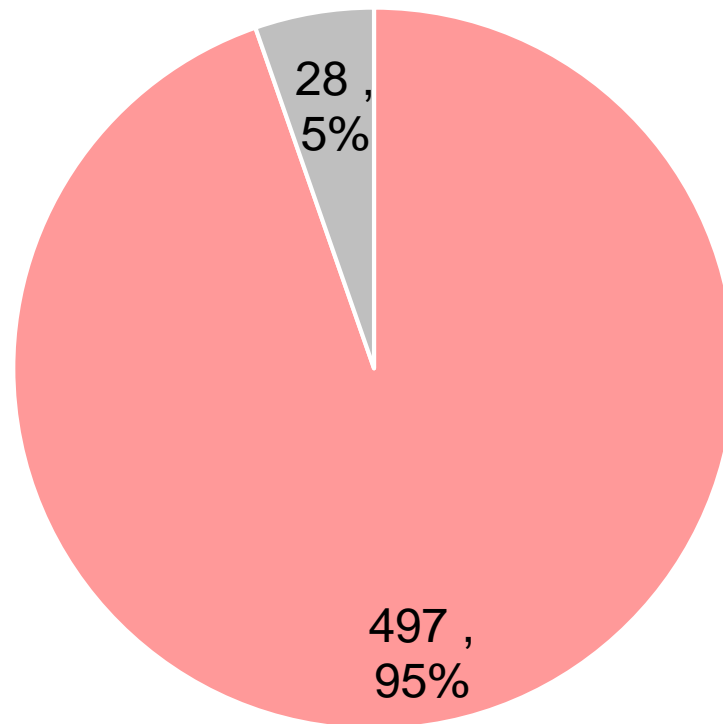
連携の有無



■ 連携あり

■ なし

成果の有無



■ 成果あり

■ なし

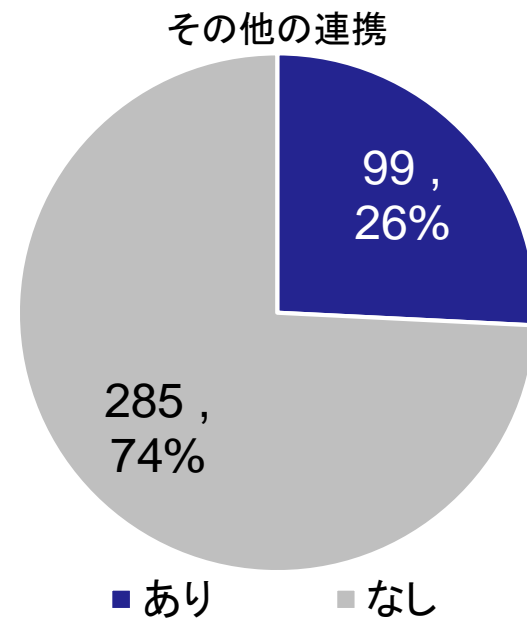
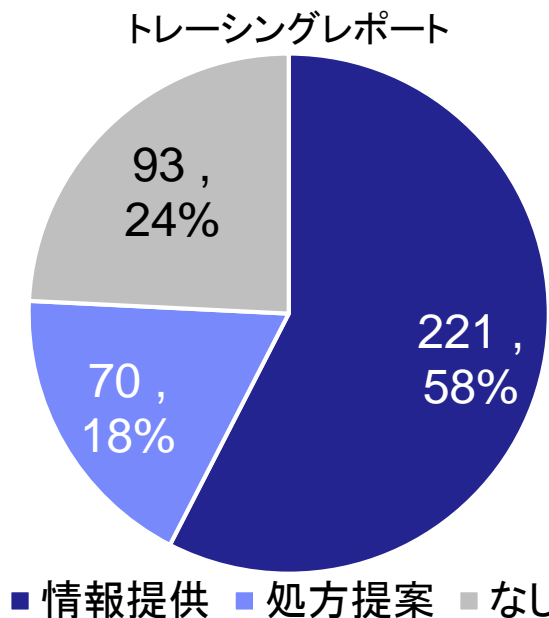
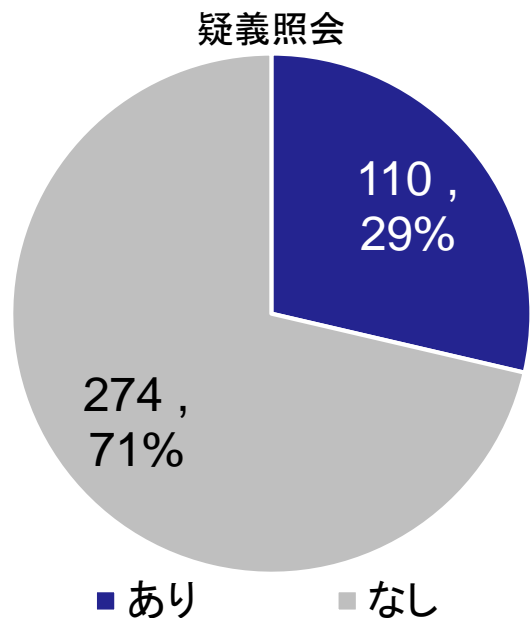
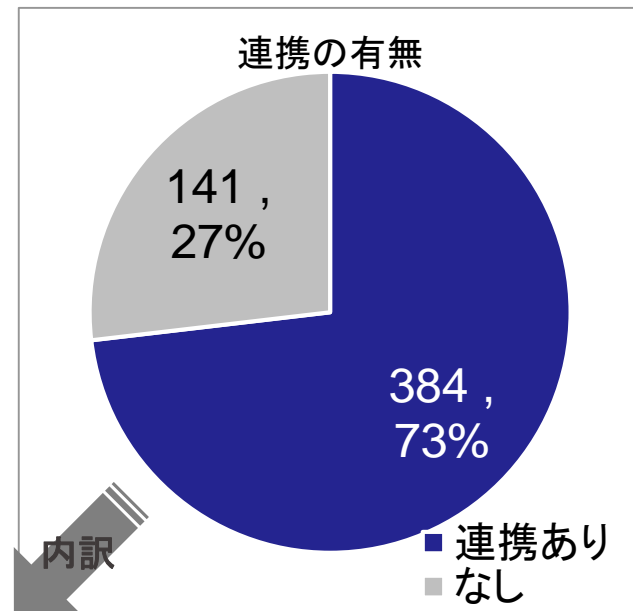
フォローアップ後の連携の内訳 ※複数該当あり

連携に繋がった384事例のうち、

- 疑義照会を行った事例が110件、29%
- トレーシングレポートにより情報提供を行った事例が221件、58%、処方提案を行った事例が70件、18%
- その他の連携として、訪問診療への同行、訪問看護師・介護士、ケアマネとの情報交換、介護施設、地域支援センター等への情報提供等が99件、26%

であった。

N=384 (連携に繋がった事例より、複数該当あり)



フォローアップ後の成果の内訳 ※複数該当あり

成果に繋がった497事例のうち、

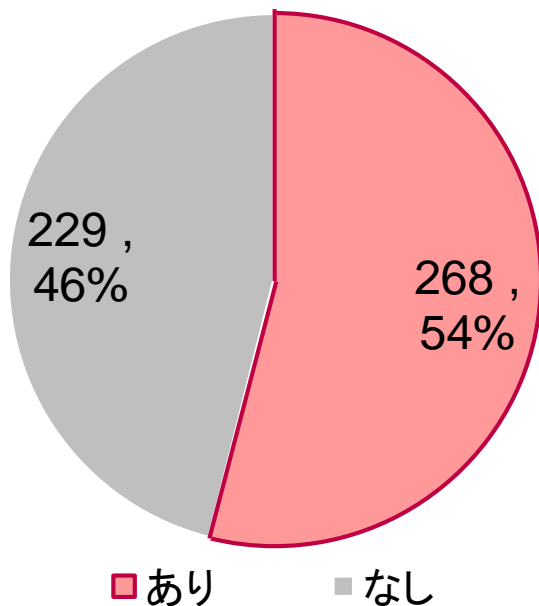
- 処方内容の変更が見られたのが268件、54%
- 服薬状況や副作用の確認等、処方変更以外の成果に繋がったのが342件、69%
- 服薬状況、体調、副作用において、フォローアップ後に改善が見られた事例が434件、87%

であった。

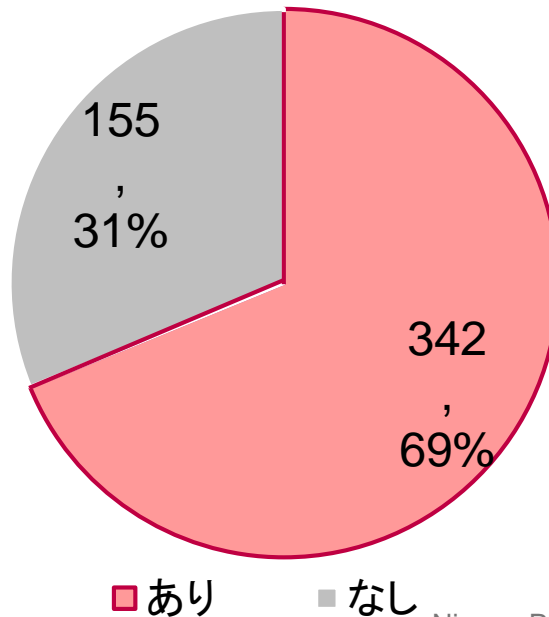
次項以降にて、さらに、それぞれの項目の内訳を示す。

N=497 (成果に繋がった事例より、複数該当あり)

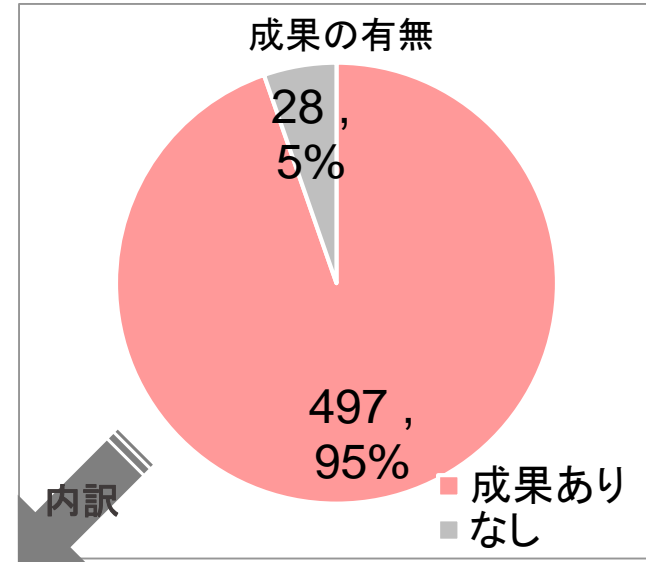
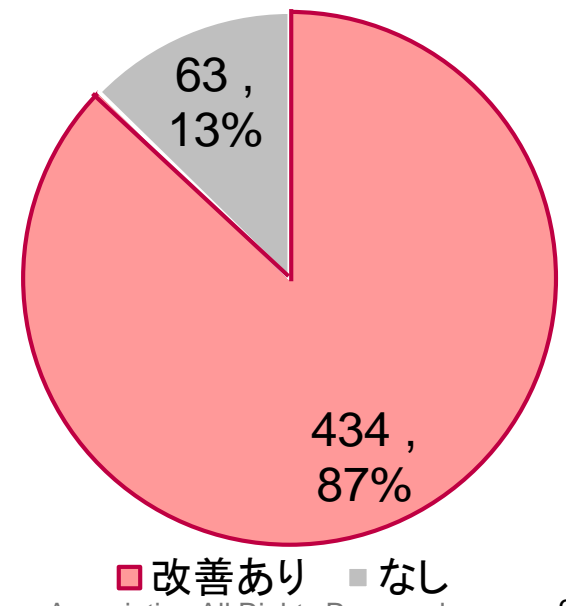
処方内容の変更有無



その他の成果



その後の改善有無



フォローアップ後の成果 —処方変更の内訳—

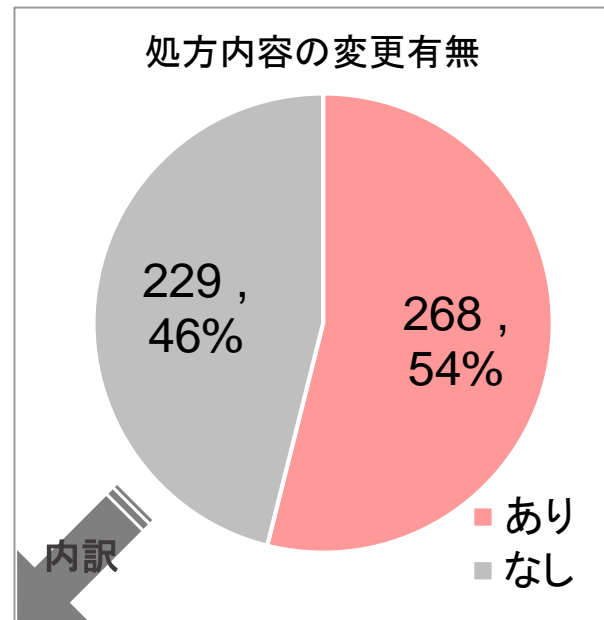
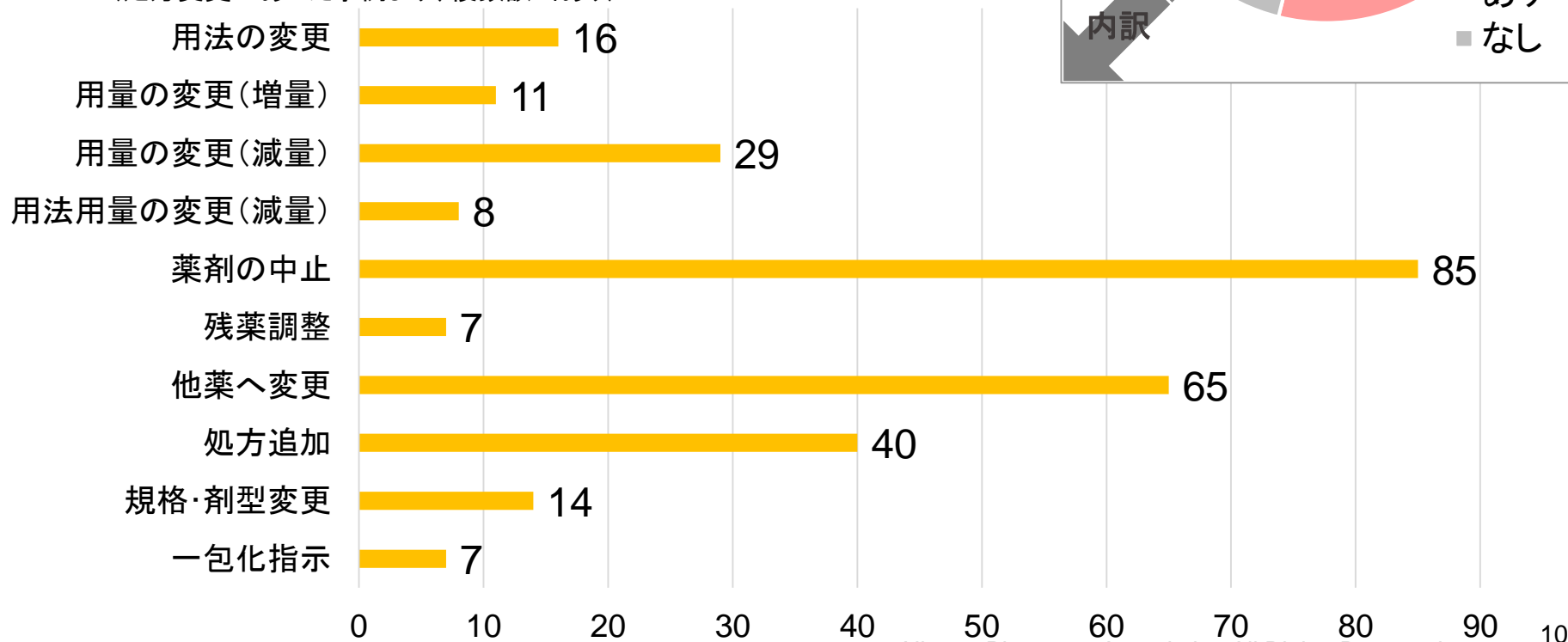
※複数該当あり

処方内容の変更があった268事例の内訳は、

- 副作用の発現等により、薬剤の中止85件、他薬へ変更65件、減量が37件
- 患者の症状に応じた処方追加が40件、増量が11件
- 服薬状況の改善等のための用法変更が16件、規格・剤型変更が14件、一包化指示7件

であった。

N=268(処方変更があった事例より、複数該当あり)



フォローアップ後の成果 —処方変更の内訳—

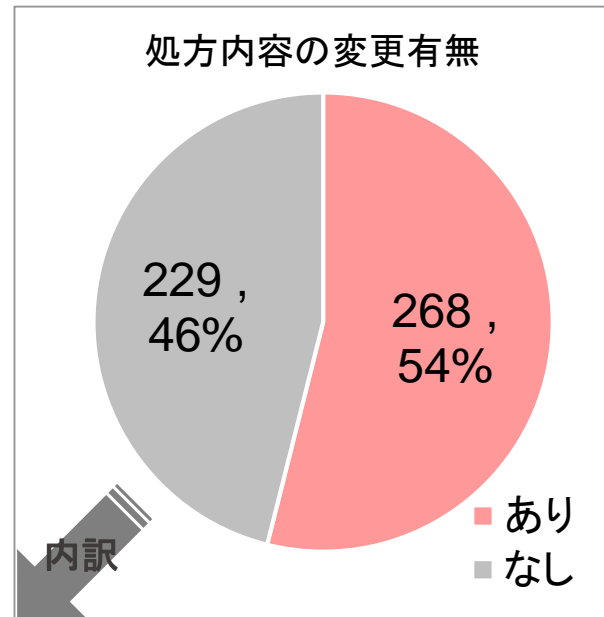
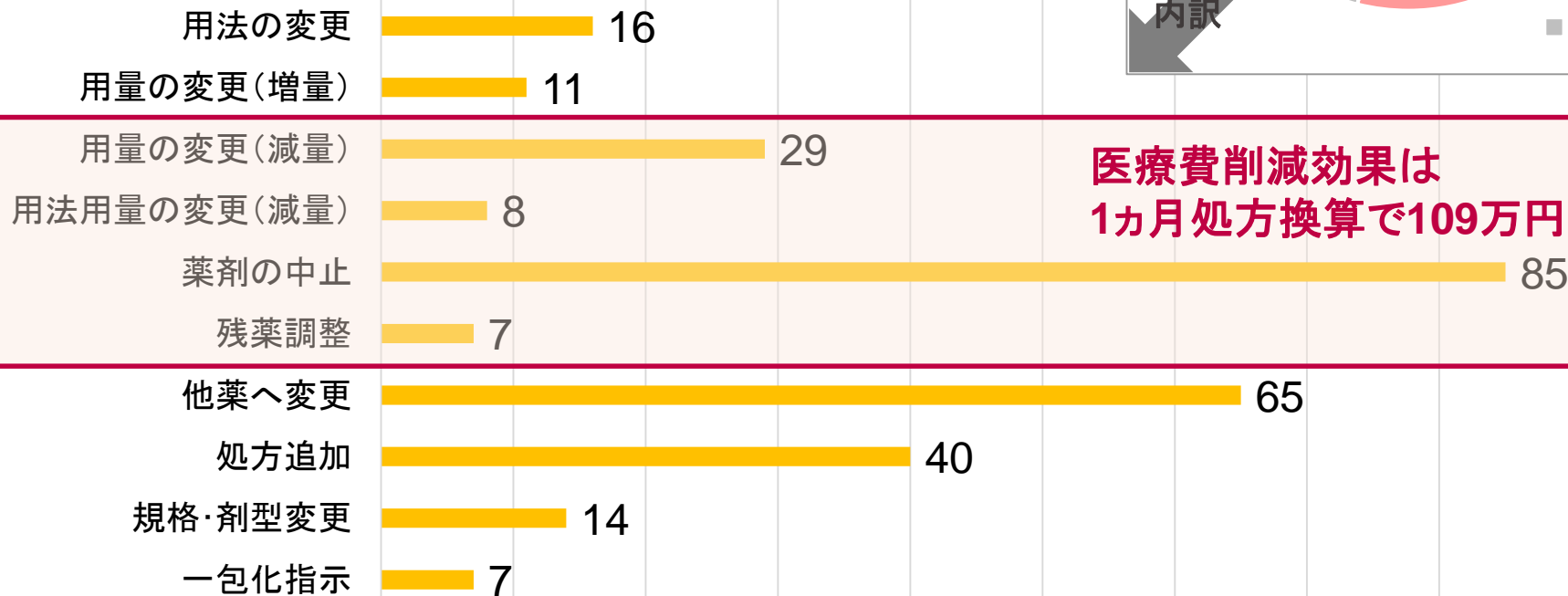
※複数該当あり

処方内容の変更があった268事例の内訳は、

- 副作用の発現等により、薬剤の中止85件、他薬へ変更65件、減量が37件
- 患者の症状に応じた処方追加が40件、増量が11件
- 服薬状況の改善等のための用法変更が16件、規格・剤型変更が14件、一包化指示7件

であった。

N=268(処方変更があった事例より、複数該当あり)



**医療費削減効果は
1ヵ月処方換算で109万円**

フォローアップ後の成果 —処方変更の内訳—

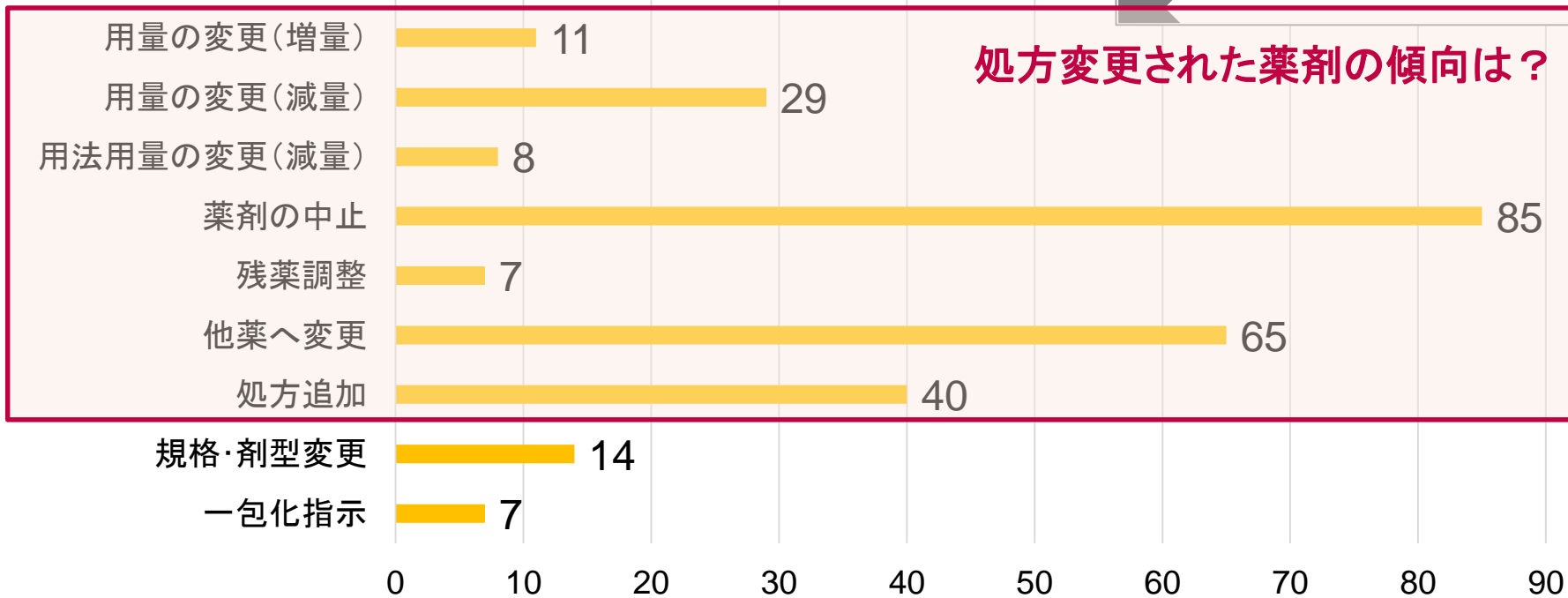
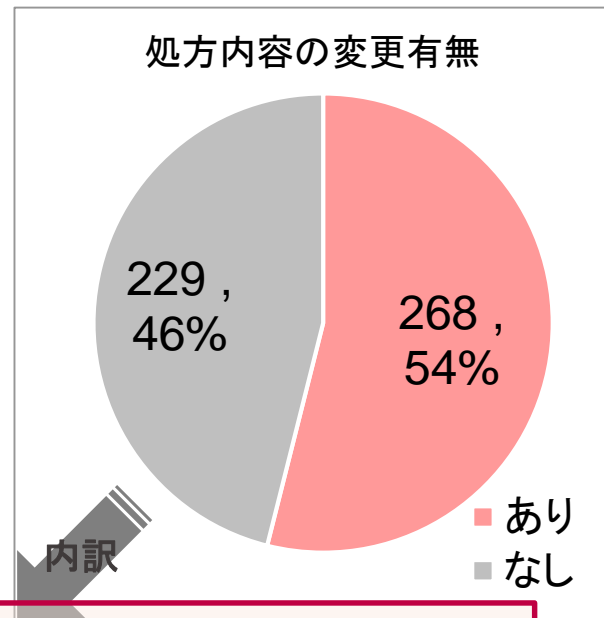
※複数該当あり

処方内容の変更があった268事例の内訳は、

- 副作用の発現等により、薬剤の中止85件、他薬へ変更65件、減量が37件
- 患者の症状に応じた処方追加が40件、増量が11件
- 服薬状況の改善等のための用法変更が16件、規格・剤型変更が14件、一包化指示7件

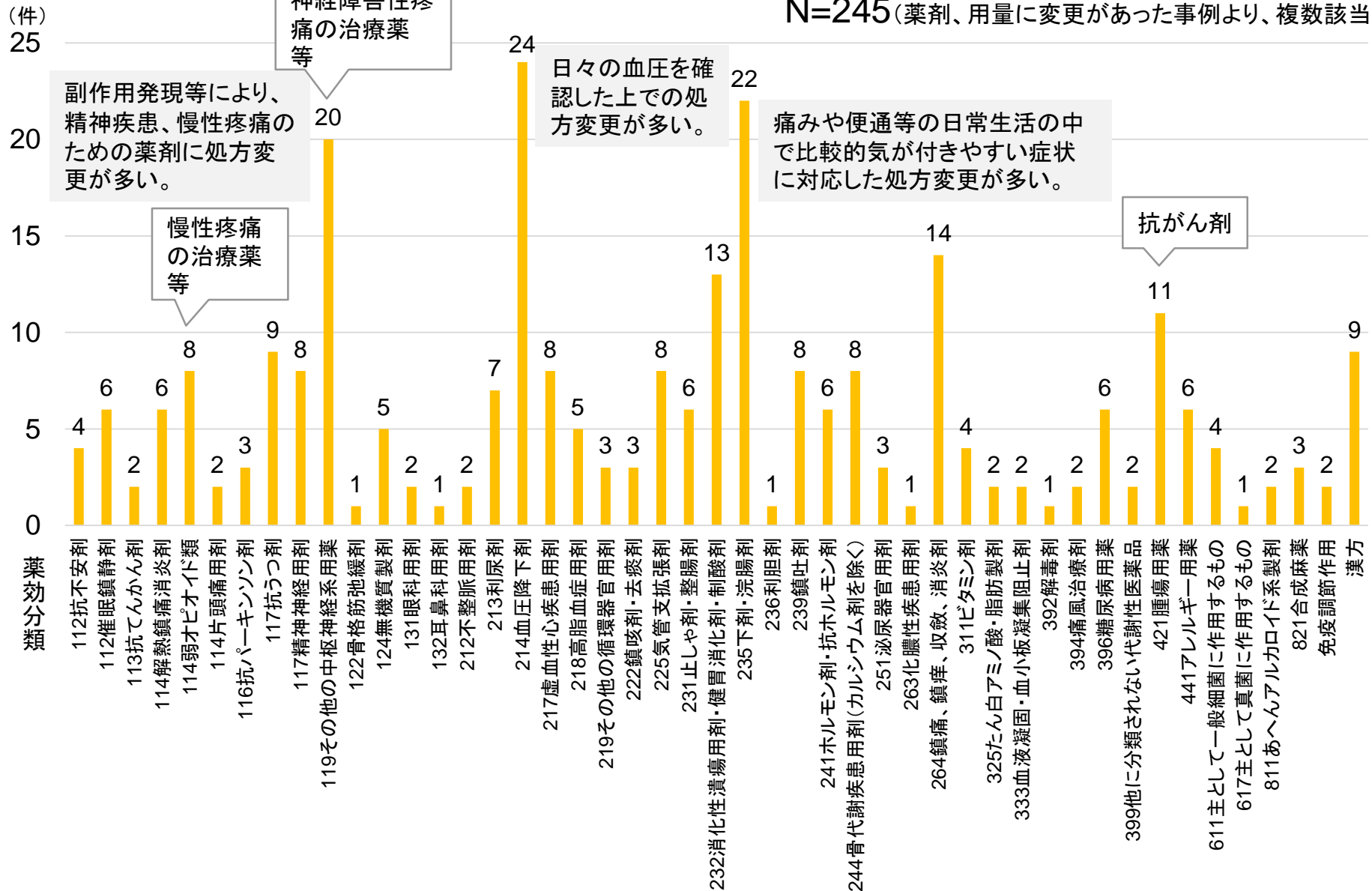
であった。

N=268(処方変更があった事例より、複数該当あり)



処方変更された薬剤の傾向 —薬効分類—

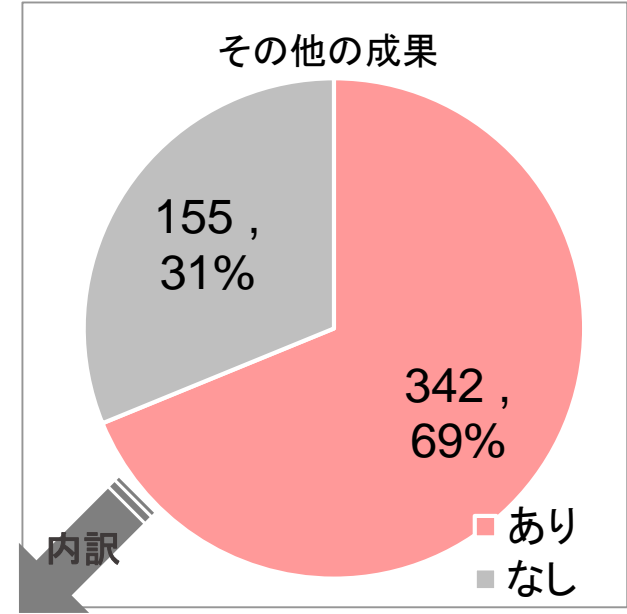
N=245(薬剤、用量に変更があった事例より、複数該当あり)



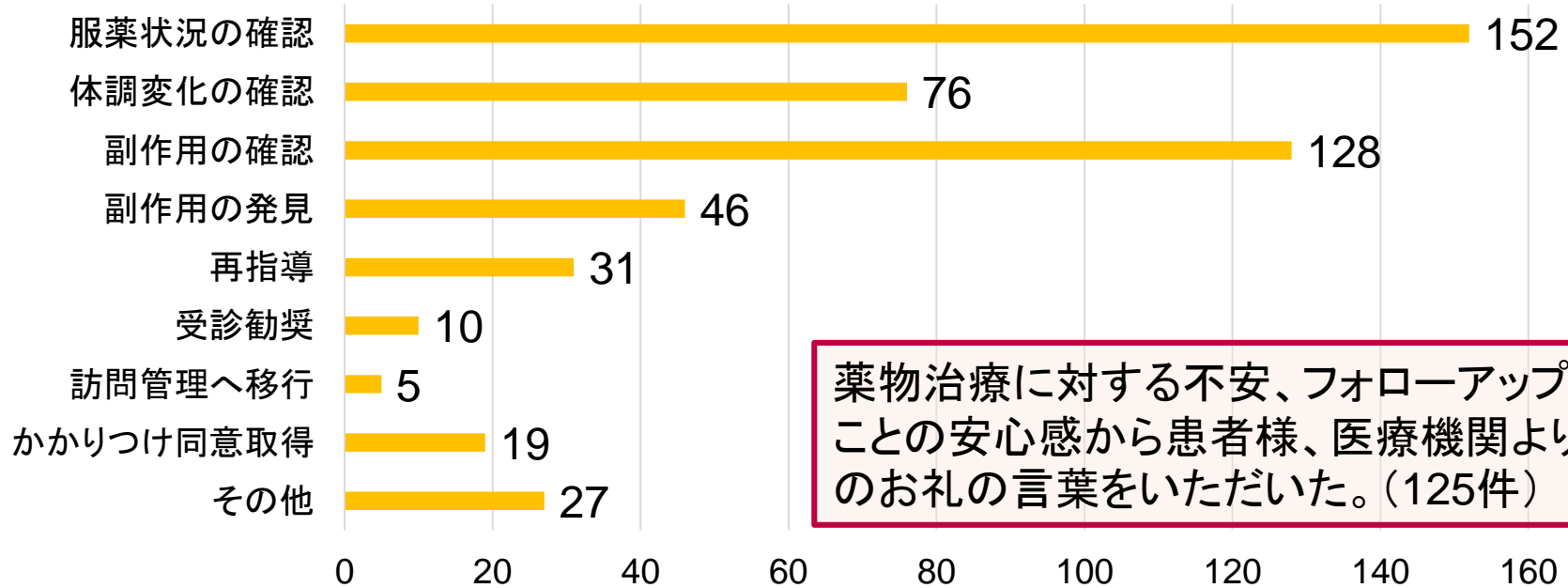
フォローアップ後の成果 —処方変更以外の成果の内訳— ※複数該当あり

処方変更以外の成果が見られた342事例の内訳は、

- 副作用の発見、確認が174件
- 服薬状況の確認152件、体調確認が76件
- 服薬に関する再指導31件、受診勧奨や訪問管理へ移行するケースも見られた。
- かかりつけ薬剤師の新規契約19件
- その他として、重複防止、血圧・血糖値確認、院内治療の変更や、介護者の労力軽減、食事指導等、多岐にわたる成果が見られた。



N=342 (処方変更以外の成果が見られた事例より、複数該当あり)



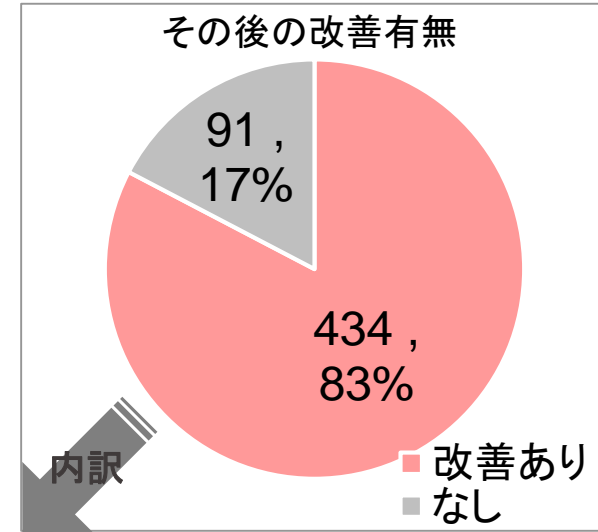
薬物治療に対する不安、フォローアップされたことの安心感から患者様、医療機関より多くのお礼の言葉をいただいた。(125件)

その後の経過

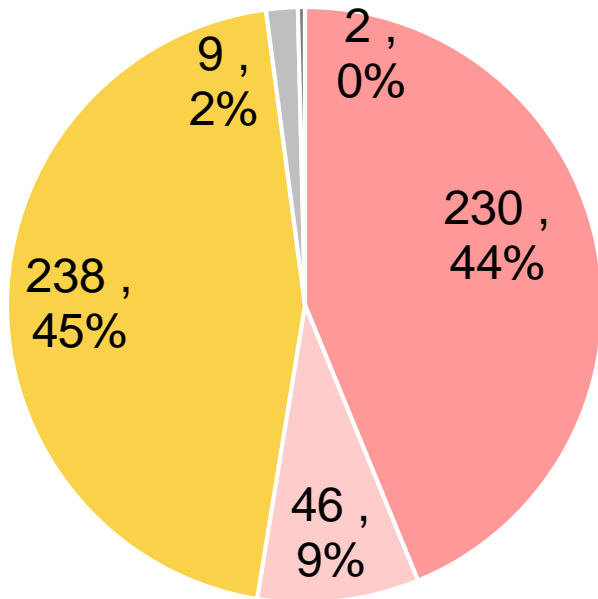
フォローアップ後に経過改善が見られた434事例の内訳は、

- 服薬状況の改善が見られたのが276件
- 体調に改善が見られたのが333件
- 副作用の経過に改善が見られたのが226件であった。

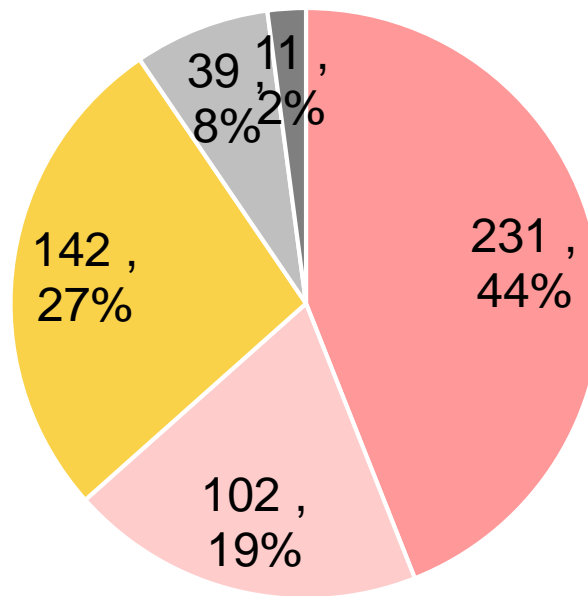
N=525



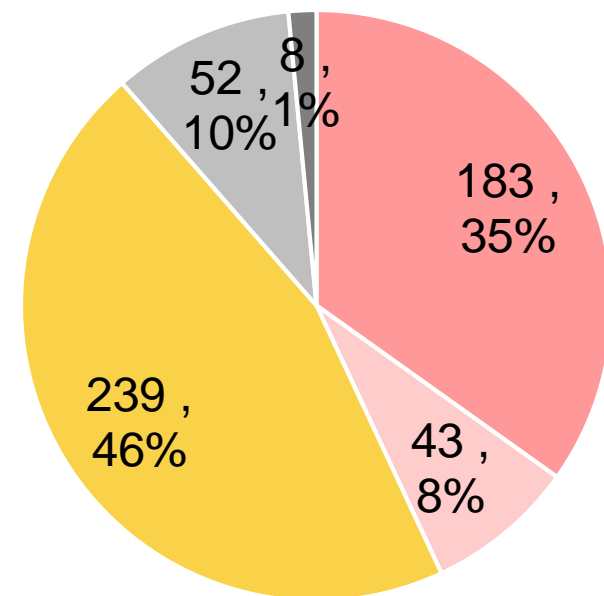
その後の服薬状況



その後の体調変化



その後の副作用の経過



■ 改善した ■ 改善傾向
■ 良好を維持 ■ 悪いまま
■ 悪化した

■ 改善した ■ 改善傾向
■ 良好を維持 ■ 悪いまま
■ 悪化傾向

■ 改善した ■ 改善傾向
■ 副作用なし ■ 副作用継続
■ 悪化傾向

まとめ –服用期間中フォローアップ 525事例–

■ 医療連携に繋がった事例が**384件、73%**

処方医への情報提供、処方提案等、また、医療機関以外との連携も見られた。

■ 成果に繋がった事例が**497件、95%**

□ 処方変更が見られたのが**268件、54%**

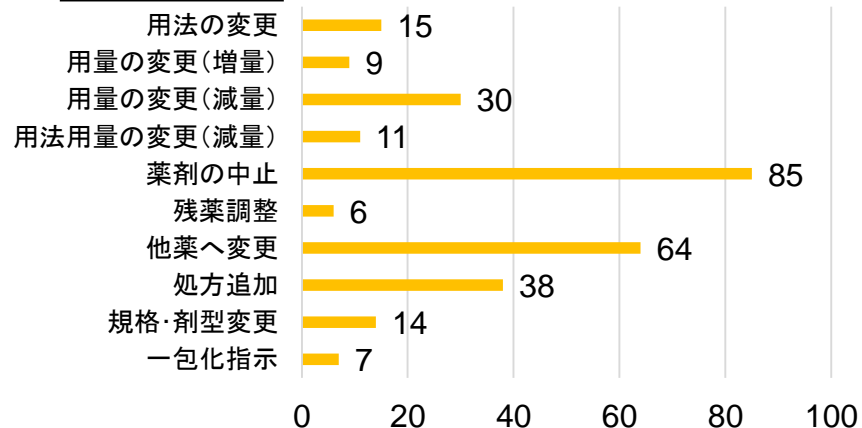
- 副作用の発現等により、中止や減量が126件
- 薬剤中止、減量、残薬調整による医療費削減効果は、1ヵ月処方換算で109万円
- 処方追加や増量が47件
- 服薬状況の改善等のための変更が36件

□ 処方変更以外の成果が見られたのが**342件、69%**

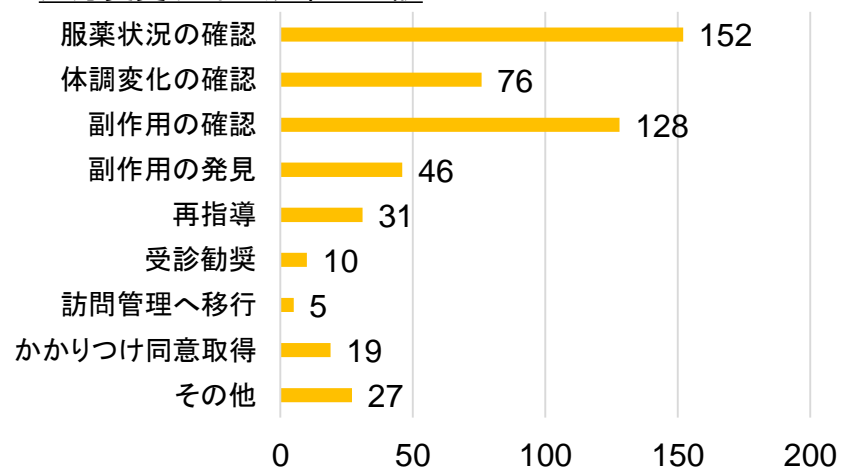
- 副作用の発見、確認が174件
- 服薬状況の確認152件、体調確認が76件
- 服薬に関する再指導31件
- かかりつけ薬剤師の新規契約19件
- 薬物治療に対する不安、フォローアップされたことの安心感から患者様、医療機関より多くのお礼の言葉をいただいた。(125件)

□ 患者聞き取りによる薬剤師による評価では、フォローアップ後に服薬状況、体調、副作用に改善が見られたのが**434件、83%**

処方変更の内訳



処方変更以外の成果の内訳



考察

医療制度検討委員会では、「薬局薬剤師が地域におけるチーム医療の中で、継続的な薬学的管理を担い、治療・処方作成のサイクルに持続的に関わることで、治療効果の最大化及び医療費抑制に貢献することが期待できる」と考え、2020年1月に「地域医療における継続的な薬学的管理イメージ」を作成しております（次項参照）。このイメージにおいても、今回の調査内容である「服用期間中フォローアップと医療連携」は、薬局薬剤師の基本的な業務となると考えます。

本調査で得られた結果は、日常生活の中での薬物治療の経過をフォローアップをすることによって得られた情報を処方医をはじめ、多職種に情報提供することで、処方変更や、患者のアドヒアランス向上、治療経過の改善に、間接的（内容によっては直接的）に繋がっており、治療効果の最大化及び医療費抑制に貢献しているということを示唆しています。

また、患者やその家族、連携先の医療従事者から多くのお礼の言葉をいただき、かかりつけ薬剤師として新たに指名される事例も見受けられたことから、**薬局の機能や薬剤師の職能を患者に理解、実感していただく機会にもなっている**と考えます。そして、これらの成果を広く共有をし、薬局薬剤師の基本的な業務として浸透していくよう努めていきたいと考えます。

最後に、本調査は、服用期間中フォローアップの事例を広く、網羅的に収集したものであるが、患者背景（ライフスタイル、食事・運動等）、疾患、服用薬剤、治療経過（服薬状況、体調、副作用等）によって、フォローアップの内容は多岐に渡ることが分かっており、今後は、より薬剤師の専門性を活かしたフォローアップに着目をした成果を調査していくことが有意義であると考えます。

地域医療における継続的な薬学的管理イメージ

薬局薬剤師が地域におけるチーム医療の中で、継続的な薬学的管理を担い、治療・処方作成へのサイクルに持続的に関わることで、治療効果の最大化及び医療費抑制に貢献することが期待できる。

良

治療経過

